

(仮称) ^{かいちのぞみ}開智望中等教育学校の設置計画が承認！

(設置認可申請予定)

平成30(2018)年7月31日に学校法人開智学園(埼玉県さいたま市)が提出した(仮称)開智望中等教育学校の設置計画承認申請書が私立学校審議会に諮られ、10月2日、大井川和彦茨城県知事により承認されました。今後、既存の開智望小学校(つくばみらい市筒戸)と同地に、校舎・体育館の増築とグラウンド造成に着手し、平成32(2020)年4月開校を目指し準備を進めます。

(仮称)開智望中等教育学校は、「世界の人々や文化を理解、尊敬し、平和で豊かな国際社会の実現に貢献できるリーダーの育成」を教育理念に掲げ、開智望小学校(平成27(2015)年度開校)の最上級学年である現5年生が中学生となる平成32(2020)年4月開校を目指し計画を進めてまいりました。中等教育学校の開校が認められれば、国際的教育プログラムである「国際バカロレア(以下、「IB」)」のカテゴリ「5-5-2」の学制に基づく、小中高12年完全一貫教育が実現することになります。

学校教育法第1条に規定する学校(いわゆる第1条校)において、小中高12年間を通してIBプログラムを実践する学校は全国初となり、我が国における本格的なグローバル教育の先駆けとしてその道を拓くこととなります。このアカデミックでグローバル化に対応した21世紀型の教育は、筑波研究学園都市を擁する県南地域の豊かな教育環境をさらに豊かにすることでしょう。

近年、詰め込み型教育からの脱却が叫ばれ、アクティブラーニングという言葉とともに様々な実践が見られますが、開智学園では20年以上前から小・中・高のそれぞれの段階に応じた「探究型の学び」を実践し続けていました。政府は2018年までに200校の高校にIB(DP※2年間(高2、高3)のプログラム)を導入する計画を正式決定していますが、難易度が非常に高く、高校2年間のみで一定のスコアを取得することは容易ではありません。

開智望(小学校および接続予定の中等教育学校)は、小学校低学年から日本の学習指導要領を基に、IBの教育を融合させた独自のプログラムを実践し、中学から高校へとその学習法を系統的に深めていくことで、文部科学省が推し進める「主体的・対話的で、深い学び」を実現したいと考えています。

これまでの日本の教育のよさも大切にしつつ(学習指導要領をしっかりとおさえ、基礎・基本を大切に知識力や計算力を身に着ける)、21世紀に求められる力の育成も視野に入れて(IBのプログラムを取り入れる)、開智学園が取り組んできた探究型の学びを「進化」「深化」させた開智望の「真価」がこれから明らかになっていきます。

国際バカロレア(IB: International Baccalaureate)とは、国際バカロレア機構(本部ジュネーブ)が提供する国際的な教育プログラムです。1968年、チャレンジに満ちた総合的な教育プログラムとして、世界の複雑さを理解して、そのことに対処できる生徒を育成し、生徒に対し、未来へ責任ある行動をとるための態度とスキルを身に付けさせるとともに、国際的に通用する大学入学資格(国際バカロレア資格)を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設置されました。現在、認定校に対する共通カリキュラムの作成や、世界共通の国際バカロレア試験、国際バカロレア資格の授与等を実施しています。

私立小・中・高・中等教育学校設置認可及び学校法人設立認可

に係る手続きスケジュール

(平成32年4月1日開校の場合)

